

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AT116／演習 E16 (Seminars E16)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中世後期を中心とした国語史研究—『大蔵虎明本狂言集』を読む—		
担当者名 (Instructor)	川瀬 卓(KAWASE SUGURU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	JAL2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- (1) 中世後期日本語の実態を観察・記述する方法の基礎を身につけること。
- (2) 中世後期日本語を視座として国語史を構築する方法の基礎を身につけること。
- (3) 調査・考察した内容をわかりやすく説得力のある文章で表現できるようになること。

This course aims for students

- (1) to acquire the basics of how to observe and describe the reality of Late Middle Japanese.
- (2) to acquire the basics of how to construct a history of the Japanese language from the perspective of Late Middle Japanese.
- (3) to become able to express research results and discussions intelligibly and to form persuasive sentences.

授業の内容(Course Contents)

『大蔵虎明本狂言集』を演習形式で読み、実践的に国語史研究の方法を学んでいきます。

講義と演習を交えた形で導入を行ったのち、受講生による資料読解、研究課題の発表演習にうつります。導入では狂言台本の資料性、その他の中世後期の文献資料について概説するとともに、国語史研究の基礎、演習準備の方法等について説明します。演習では担当者が原文の1字1字を確認しつつ正確に翻刻し、細心の注意を払って原文に忠実な読解を行うとともに、国語史的問題について考察します。演習担当者の発表後、参加者全員で討議を行います。

We will read “Ōkura Toraakirabon Kyōgenshū” to learn how to practically research the history of the Japanese language.

After an introduction through lectures and exercises, students will read materials and present their research. The introduction will outline the materiality of kyōgen scripts and other late medieval literary sources. We will also explain the basics of research on the history of the Japanese language and of preparing for a presentation.

In the presentation, the presenter will check each word of the original text, reprint it accurately, carefully and faithfully read it, and discuss the historical issues related to the Japanese language. After the presenter’s presentation, all participants will engage in a discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入、資料の概説
2. 演習の実例
3. 調査の練習(1)現代の辞書の使い方
4. 調査の練習(2)用例の集め方、整理の仕方
5. 学生の発表と討論(1)
6. 学生の発表と討論(2)
7. 学生の発表と討論(3)
8. 学生の発表と討論(4)
9. 学生の発表と討論(5)
10. 学生の発表と討論(6)
11. 学生の発表と討論(7)
12. 学生の発表と討論(8)
13. 学生の発表と討論(9)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

(予習)演習担当者は入念に準備を行ってください。見やすく、要点を押さえた演習資料を作成してください。担当者以外の受講生は該当箇所をあらかじめ読み、語句の下調べを行って内容を理解しておくとともに、問題となりそうな箇所を考えておいてください。

(復習)授業で話題となった事象について、関連文献を調べて理解を深めてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

口頭発表(40%) / 討議への参加状況(20%) / 最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

とくになし。随時紹介します。

参考文献 (Readings)

1. 大木一夫 (編)、2019、『ガイドブック日本語史調査法』、ひつじ書房 (ISBN:978-4-89476-854-3)

その他、随時紹介します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)